

第1回 JASD 認定医研修会
「スポーツ歯科医学 - 総論 - 」

安井利一（明海大学）



日本におけるスポーツ歯科医学の歴史は、学会という形で開始されたときに始まるとすれば15年ほどである。しかしながら、今や、スポーツ歯科医学の領域は「競技スポーツ」から「健康スポーツ」さらに「学校体育」の領域まで大きく広がってきている。そして、この領域で活躍できる歯科医師が必要とされる時代となっている。日本スポーツ歯科医学会の学会活動の目標は、大きく3領域にまとめることが出来るが、諸外国の学会活動に比較してみると、相当広い視野で活動を行っているといえる。その3領域とは、第一に「スポーツによる国民の健康づくりを支援する歯科医学的配慮」である。スポーツは国民健康づくり指針の柱である。スポーツに関わるには「食べる機能」を通じた身体づくりが基本である。そのために「スポーツ栄養学」の考え方も理解しておく必要がある。口腔を健康に保つための食事指導も必要になる。さらに、口腔の機能としての咀嚼や発音だけでなく、スポーツそのものを支援するための口腔の状況を保持増進する歯科医学的配慮が必要であろう。第二には「顎顔面口腔領域でのスポーツ外傷の予防と安全教育・管理への歯科医学的配慮」である。マウスガードの装着による安全確保はコンタクトスポーツには必須のアイテムであるが、その背景として、マウスガードに関する適切な理解が必要であることはいうまでもない。また、特に学校安全の領域からは生活安全の一部としての教育・管理との接点をつくりあげ、生涯にわたる安全な生活の確保に貢献する必要がある。第三に「スポーツ競技力の維持・向上を支援するための歯科医学的配慮」が挙げられる。スポーツ歯科医学の知識を通じて、安全で競技力向上を目指したスポーツを支援することが必要である。そのためにはドーピングから運動生理学あるいはスポーツ医学の基礎的領域の理解が必要となろう。歯科医師として、スポーツに関わる小児から老人まで、スポーツ愛好家からトップアスリートまでをどのように支援できるかを理解することは、今後の歯科医療の基礎を培うという意味からも極めて重要なことと考える。